

Red Hat Ansible Automation Platform

コミュニティ版とエンタープライズ製品

「DevOps チームが自動化を中心とするアプローチへと文化的に変化する後押しができるエンタープライズ向けテクノロジーが必要であることに気付きました。また、コストの削減と再利用性の向上に加え、約 150 のプロプライエタリー・スクリプトの回帰を回避するベンダーに依存しないソリューションも必要でした。」

—
Crédit Agricole Group
Infrastructure Platform (CA-GIP)
Unix チーム責任者
Pierre-François Liozon 氏

エグゼクティブサマリー

[AWX プロジェクト](#)と [Red Hat® Ansible® Automation Platform](#) は、どちらも IT 自動化とオーケストレーションのためのオープンソースツールですが、両者には大きな違いがいくつかあります。

この 2 つのオープンソースツールを簡単に紹介します。AWX プロジェクトはアップストリーム・プロジェクトであり、コミュニティ主導のサポートモデル、よりスピーディーなリリースサイクル、高度な機能を提供します。Ansible Automation Platform は、エンタープライズグレードのサポート、洗練されたセキュリティ重視の安定した機能、Red Hat のエコシステムとの継続的な統合を提供する商用製品です。企業はコミュニティ版を使用する際に生じるリスクを負うことなく、イノベーションの最前線に立ち続けることができます。

ライセンス、ドキュメンテーション、サポートから、リリースサイクル、ユーザー・インタフェース、より大きな Red Hat エコシステムとの統合に至るまで、自社のビジネスニーズに最適なオプションを比較検討する際に考慮すべき要素は数多くあります。Ansible Automation Platform のこれらの追加機能とサポートオプションは、運用オーバーヘッドを削減し、効率を向上させ、エンタープライズ環境により堅牢でスケラブルな自動化プラットフォームを提供するのに役立ちます。

機会

AWX プロジェクトから Ansible Automation Platform に移行すべきかどうかは、基礎となるテクノロジー、市場、業界の課題など複数の要因によって左右されます。この概要では、AWX と Ansible Automation Platform の主要な違いを説明します。

基盤となるテクノロジー

- ▶ **AWX と Ansible Automation Platform:** どちらもオープンソースの自動化フレームワークである [Ansible](#) の上に構築されており、構成管理、アプリケーションのデプロイ、さまざまなシステムにわたるオーケストレーションを単純化することができます。
- ▶ **AWX:** Ansible のアップストリーム・プロジェクトである automation controller (旧 Red Hat Ansible Tower) は、Web ベースのユーザー・インタフェース、ジョブスケジューリング、Ansible のマルチテナント対応を提供します。アクセスコントロール、一元化されたログ機能、通知などの機能を提供します。
- ▶ **Ansible Automation Platform:** Red Hat が提供するダウンストリームの製品で、20 以上の Ansible アップストリーム・プロジェクトが含まれています (そのうちの 1 つが AWX)。追加機能、拡張機能、サポートオプションが含まれており、エンタープライズ [認定コンテンツ](#)、セキュリティ、コンプライアンス、スケーラビリティを提供します。

業界の課題

- ▶ **企業への導入:** Ansible Automation Platform は、強固なセキュリティ、安定性、コンプライアンス、管理機能を必要とする企業や組織を対象としています。
- ▶ **サポートとプロフェッショナル・サービス:** Ansible Automation Platform は、[商用サポート](#)、[コンサルティング](#)、[トレーニング](#)と認定、[プロフェッショナル・サービス](#)を提供しており、タイムリーな支援、ガイダンス、カスタマイズオプションを必要とする組織にとって非常に重要です。

- ▶ **セキュリティとコンプライアンス**: Ansible Automation Platform は、SAML ベースのシングルサインオン (SSO)、ロールベースのアクセス制御 (RBAC)、[署名機能](#)、証明書ベースの認証など、追加のセキュリティ機能を提供します。
- ▶ **スケーラビリティ**: 組織が成長し、自動化のニーズが拡大するにつれて、スケーラビリティは重要な課題となります。Ansible Automation Platform は、クラスタリングやロードバランシングなどの強化されたスケーラビリティ機能を備えており、大規模な自動化デプロイメントを効果的に処理できます。
- ▶ **ガバナンスと監査可能性**: 組織全体における自動化されたあらゆるアクティビティの管理と追跡は、自動化タスクとユーザーの数が増えるにつれて複雑になります。Ansible Automation Platform は、アクティビティロギング、レポートング、コンプライアンス監視など、これらの課題に対処するためにガバナンスと監査可能性を強化します。

テクノロジー・ソリューションと利点

コミュニティ主導のソリューションは、さまざまな方法でサポート、文書化、リリース、インタフェースされ、他の製品と統合されます。Red Hat Ansible Automation Platform は、AWX で利用可能な革新的で開発最先端の利点を活用し、安定したセキュリティ重視かつ信頼性の高いソリューションをお客様に提供します。

ライセンス、ドキュメント、サポート

- ▶ AWX は、Automation Controller のアップストリーム・バージョンとして機能するオープンソース・プロジェクトです。AWX は自由に利用可能でコミュニティによってサポートされているため、ライセンス費用なしで使用できます。ドキュメント、フォーラム、コミュニティ主導のリソースは利用可能ですが、公式サポートや追加機能はプロジェクトから直接利用できない場合があります。
- ▶ Ansible Automation Platform はエンタープライズサポートを提供する、Red Hat ポートフォリオの一部であり、公式サポート、セキュリティの更新、[パフォーマンステスト](#)、追加機能を提供します。ドキュメントやナレッジベースの記事にアクセスできるほか、[問題や問い合わせ](#)があれば Red Hat のサポートチームにサポートを求めることができます。

リリースサイクル

- ▶ AWX のリリースは、Ansible Automation Platformと比較してより頻繁に、異なるサイクルで行われます。ほとんどのリリースには実験的な機能や変更が盛り込まれており、安定性や本番環境への適合性がテスト中のものもあります。
- ▶ Ansible Automation Platform は商用製品として、Red Hat によって決定された[標準化されたリリースサイクル](#)に従います。新機能、バグ修正、セキュリティの更新は Red Hat のスケジュールに沿ってリリースされ、安定性と長期的なサポートが提供されます。

ユーザー・インタフェース

- ▶ AWX は、Ansible Automation Platform と似たユーザー・インタフェースを提供しますが、Ansible Automation Platform に備わっている高度な機能や統合の一部が提供されていない場合があります。
- ▶ Ansible Automation Platform は、企業環境向けに設計された洗練されたユーザー・インタフェースを提供しており、[Ansible Automation Hub](#) と新しい [Event-Driven Ansible](#) コントローラーの WebUI を含みます。使いやすさ、スケーラビリティ、他の Red Hat 製品や[パートナー](#)製品との統合に注力しており、商用版にしかない追加機能や統合も含まれています。

Red Hat エコシステムとの統合

- ▶ AWX はあらゆるツールやシステムと統合することができますが、Red Hat のエコシステム製品と同じレベルの構成済み統合やネイティブサポートはありません。
- ▶ Ansible Automation Platform は他の Red Hat 製品と緊密に統合されており、システムのプロビジョニングと管理を行う [Red Hat Satellite](#) や、プロアクティブな監視と修復を行う [Red Hat Insights](#) など、より広範な Red Hat エコシステム内でのスムーズな統合を実現します。

自動化の検討は組織の運用オーバーヘッドを削減するために重要です。それと同様に重要なのが、Ansible Automation Platform の信頼できるエンタープライズ向けプラットフォームと比較した際の、AWX のアップストリーム・コミュニティ版の保守に関連する隠れたコストの見直しです。プロジェクトの要件や予算では、エンタープライズ版と比較した場合の人員配置やトレーニングに費やす時間に加え、コミュニティによるソリューションの構築、保護、保守に費やす時間を見落としがちです。計画段階ではコミュニティ版の利用の方が低価格に感じるかもしれませんが、プロジェクトの要件によっては長期的に見てかなり高額になるでしょう。コミュニティ版を本番稼働させることに伴うリスクも考慮しなければなりません。

Red Hat のアプローチ

Red Hat は、お客様がどのように Ansible Automation Platform を使用し、他の製品と統合して Red Hat エコシステム全体を最大限に活用しているかを可視化できるようにする、ポートフォリオ・アーキテクチャを複数開発しました。

以下のアーキテクチャは、Red Hat のお客様にデプロイされ、プロダクションで積極的に使用されているテスト済みのソリューションから構築されたものです。Red Hat 製品の実用的な活用や、独自のエコシステム内だけでなく他の製品やテクノロジーとの連携方法を理解するための基本的な基盤を構築することを目的としています。

Smart management for SAP: SAP のワークロードは企業にとって重要ですが、メンテナンス期間が非常に厳しいことが多いため、システム管理者が更新やメンテナンス作業を適切かつ期限内に終わらせることが困難な場合があります。このソリューションを使うと、SAP のエコシステム内 (オンプレミス、パブリック、プライベート、ハイブリッドクラウド) のすべてのサーバーのセキュリティ、ポリシー、パッチを管理し、ライフサイクルを通じて SAP と Red Hat の推奨事項に準拠していることを確認できます。

イベント駆動型の自動化: 先進的なインフラストラクチャの複雑化に伴い、この複雑な環境を維持するために費やされる高額なオーバーヘッドを回避するために、日常的な業務を自動化することの重要性が急速に高まっています。セキュリティ規制の変更に対応するための設定変更のプッシュといった単純なものから、セキュリティの脅威や緊急事態を認識して対応するといった深刻なものまで、このような対応を可能な限り迅速に行い、組織全体で一貫性と信頼性を確保することがこれまで以上に重要になっています。

自己修復インフラストラクチャ: 先進的なアプリケーション開発は、強力かつ消費しやすいため、ますます複雑化しています。インフラストラクチャの安全性とコンプライアンスを維持することは、多くの組織の課題となっています。現在のインフラストラクチャ管理における最も強力なアプローチの 1 つとして、データ駆動型のインサイトと自動化ツールを組み合わせ、対象を絞って優先順位を付けた方法で拡張するホスト全体に修復を適用することが挙げられます。

さらに詳しく

Red Hat 製品を活用してビジネス上の課題を克服し、動的な技術要件に適応しているお客様のアーキテクチャ事例について、詳しくは Red Hat [Portfolio Architecture Center](#) をご覧ください。

お客様やパートナーが日々直面する現実のビジネス課題を解決するために、Red Hat がこれらの製品を生み出している方法と理由についてもご確認いただけます。機能強化の提案や新しいアーキテクチャやアイデアの提供など、バックグラウンドを問わずどなたでもご提案ください。[ポートフォリオ・アーキテクチャとは](#)のページもぜひご覧ください。

[Ansible と Red Hat Ansible Automation Platform](#) では、Ansible の異なるバージョンに関する追加情報をご確認いただけます。



Red Hat について

Red Hat は、[受賞歴のある](#)サポート、トレーニング、コンサルティングサービスをお客様に提供し、複数の環境にわたる標準化、クラウドネイティブ・アプリケーションの開発、複雑な環境の統合、自動化、セキュリティ保護、運用管理を支援します。

アジア太平洋

+65 6490 4200
apac@redhat.com

オーストラリア

1800 733 428

インド

+91 22 3987 8888

インドネシア

001 803 440 224

日本

03 4590 7472

韓国

080 708 0880

マレーシア

1800 812 678

ニュージーランド

0800 450 503

シンガポール

800 448 1430

中国

800 810 2100

香港

800 901 222

台湾

0800 666 052

fb.com/RedHatJapan
twitter.com/RedHatJapan
linkedin.com/company/red-hat